

## [概要]

本研究では、富山県南砺市福野で行われている文化事業「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」を研究対象としてとりあげた。研究目的はスキヤキを内発的発展論からみるとどうみえるか。研究方法は聞き取り調査と資料調査を行い、既存研究との比較から考察を試みた。考察よりスキヤキというイベントは、内発的な起こりから生まれたイベントとは言えない。しかし、考察から参加者などに自らがボランティアとしてイベントに積極的な参加をするなどといった内発性がみられた。こうした内発性の起こりにより、文化の創り手として成長し、イベントを通して人との繋がりがみえてくる。結果として、スキヤキは一過性のイベントに終わることなく20年以上継続することで、異文化交流・異文化理解の活動として地域住民に認知されるようになってきた。さらには地域の一大イベントとなったことで開催することが地域の活性化へとつながっている。これらのことからスキヤキは地域にとってなくてはならないイベントとして位置づけられていると考えられる。